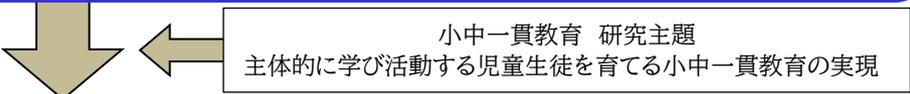


研究構想図

研究主題

自ら課題を見付け解決する児童の育成

～目的に応じた情報活用能力の育成を目指して～



次のような活動をとおして、情報活用能力の育成に向けた授業づくりを行い、自ら課題を見付け、主体的に学び、活動する児童を育てる。

- ・課題解決のためにICT機器や学校図書館等の情報手段を適切に用いて情報を得る。
- ・情報を整理・比較したり、得られた情報を分かりやすく発信・伝達したりする。
- ・情報を保存・共有しながら課題解決に取り組む。
- ・これらの活動に必要な知識(情報モラルを含む)、スキルを身に付ける。

児童に身に付けさせたい力

	見付ける	調べる・探究する・深める	まとめる・表現する	振り返り、次の課題を見付けようとする。
低学年	学ぶことに 関心をもち、課題 を選択する。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の集め方を知り、必要な情報を選択する。 ・友達の話を最後まで聞き、友達の考えのよさに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなまとめ方を知り、思いや考えを表現する。 ・集めた情報から自分の思いや考えをもち、表現する。 	
中学年	適切な課題を 選択する。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を読み取り、要点をつかんだり比較したり、関連付けたりして考える。 ・友達の意見と自分の意見の相違点に気付き、自分の考えを見つめ直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や相手を考えて、表現する。 ・整理、分析した情報から自分の意見や考えをまとめ表現する。 	
高学年	自ら課題を見 付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を整理・比較し、課題を探究しながら自己の考えをもつ。 ・友達の意見と自分の意見を比較しながら聞き、自分の考えを問い直したり、広げたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や相手に応じた表現方法で、分かりやすく表現する。 ・他者との交流や振り返りを通して、自分の意見や考えを明らかにして表現する。 	

研究の視点

- (1) 情報活用能力の体系表例や情報活用能力に関わる学習指導計画に基づいた段階的な指導計画の工夫
- (2) 協働的な学び、考えを深めさせる学習活動の工夫
- (3) 自分の考えをもたせ、目的に応じた方法で表現させる工夫
- (4) 学びの成果を次の学習へとつなげる振り返り

関連事項

タブレット PC の 普段づかい	校内 ICT 環境の充実
教師の ICT 機器活用の スキル向上	家庭との連携における ICT 機器の活用